

心理学II(2) 中村 奈良江/田原 直美	履修年次	クラス	単位	学期
	1-4		2	後期
備考：				

【講義の概要】

【授業の到達目標及びテーマ】

心理学 では、心理学Iで学んだ多くの人に共通する行動特徴の内容から、さらに、発達によってどのように変化して行くのか、個人差の問題や置かれている状況によってどうかわるのか、集団の場合にはどのようになるのか、といった問題を取り上げる。これらの知識を身につけ実生活の中で応用できる事を到達目標としている。

【授業の概要】

各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。

【準備学習等についての具体的な指示】

初回に配布する詳細なシラバスに指定している教科書の部分をあらかじめ読んでおく事。

【各回ごとの授業内容】

【第1回】<社会行動は何によって左右されるか1>（帰属過程、対人認知、印象形成）ビデオ

【第2回】<社会行動は何によって左右されるか2>（同調行動・斉一性への圧力、説得行動：両面提示・一面提示、説得への抵抗、リアクタンス理論他）

【第3回】<社会行動は何によって左右されるか3>（対人魅力：身体的魅力・近接性・類似性・生理的要因、単純接触の効果、集団決定、集団規範、リ・ダ・シップ）

【第4回】<社会的影響>（援助行動、攻撃行動）

【第5回】社会心理学領域小テスト <社会行動は何によって左右されるか4>（自己開示）

【第6回】<発達によって何が変わるのか1>（遺伝と環境：行動主義者の考え、ジャンセンの環境閾値説、成熟と学習、発達優位説、脳の刈り込み、ブルーナーの発達理論・ヴィゴツキーの発達最近接領域）

【第7回】<発達によって何が変わるのか2>（年齢毎の言語・知覚・愛着の発達特徴、ピアジェの認知発達の理論）ビデオ

【第8回】<発達によって何が変わるのか3>（エリクソンの社会的発達、フロイトの精神分析的発達、道徳性の発達）

【第9回】発達領域小テスト <発達によって何が変わるのか4>（道徳性の発達診断）

【第10回】<精神疾患の概要>（主な精神病と主な神経症）

【第11回】<カウンセリング>（ロジャースの心の理論とクライエント中心療法、行動療法、認知行動療法）<精神分析の理論と方法の概要>（フロイトの心の理論と精神分析）

【第12回】<パーソナリティとは何か>（定義、パーソナリティの構造、類型論：クレッチマー・ユング・シュブランガー、特性論：キャッテル、アイゼンク） <パーソナリティテスト1>（質問紙法：YG検査、作業検査法：クレペリン検査、投影法：ロールシャッハテスト、文章完成法、PFスタディ）

【第13回】臨床領域小テスト <パーソナリティテスト2>いろいろなパーソナリティテスト

【第14回】ゲストティーチャー

【第15回】3領域に関する全体ディスカッション及びまとめ

【テキスト】

「心理学概論」監修：山内弘継・橋本宰 ナカニシヤ出版

【参考書等】

必要に応じて随時資料を配布する。

【成績評価の方法】

成績は授業期間中に行われる基本的語彙知識を問う3回の各領域テスト（各20点満点）、まとめに行われる発展課題テスト（30点満点）およびMoodle上での提出課題の成績（10点）による。

【履修上の注意】

心理学Iを受講しているほうが望ましい。